良き師は

10月某日、研究所員Ｉは稚内東小学校にいた。
「よき師」の企画で吉井美奈子先生にインタビューするためだ。
私は中学校の教員なので、吉井先生と直接いっしょに働いたことはないが、同じ校区に勤務したことはある。その際の印象なのだが、吉井先生が卒業させた学年の生徒は中学校への適応が早く伸びる子どもが多いのだ。一度だけではない。
これは何か吉井先生の学級経営に秘密があるにちがいない！
私はその秘密を暴くべく、単身東小学校に潜入したのだった！
まずは吉井先生の人となりを知ってもらうための質問。

Q　月並みですが趣味は
A　旅です。最近は奈良県ばかり行って、神社・仏閣を巡っています。
Q　それは素晴らしいですねえ。ちなみにお気に入りの仏像なんてありますか？
A　法隆寺の百済観音は何度観ても良いですね。
Q　スキな音楽はありますか？
A　沖縄のトラディショナルな音楽がスキです。

肝心な質問をしてみる。
Q　吉井先生が担任した子どもって、中学校ですごく伸びるんですが何か学級経営で特に意識していることはありますか。

A　子どもたちがステキなだけですよ。

一瞬はぐらかされてしまった。しかし、意識していることとして

■子どもをこどもとしてではなく、人としてあつかいます。
それをより具体化したものとして、ずっと通している学級の4箇条があります。発達段階で言葉は変えるが学級経営の根幹をなす考えです。

吉井先生4箇条

①友達を傷つける言動は叱ります。
②何かに取り組むとき、できる・できない、結果ではなく、努力しなかった場合に、その姿勢を叱ります。
③誰かに何かをしてもらうのではなく、自分たちで考えて楽しくすごす。
④自分の「おもい」は伝える。相手の考えは聴く。

Q　吉井先生はすごく中学校の行事に足繁く来てくださり、卒業生のことを激励してくれます。たいへんうれしいのですが何かきっかけは？
A　以前に中学校の先生から、卒業生の指導について相談を受けたことがあり、それから中学校の敷居が低くなりました。
小中は、つながっていないとダメだと思います。

もう少しインタビューは続いたのだが残念ながら紙面が限界。
若い先生たちには吉井先生の学級経営理念からそれぞれが学んでいただきたい。
吉井先生にはお忙しいなかお時間を割いていただき感謝です！
ステキな話を聴かせていただきありがとうございました。

隣の席にいる

研究所員Ｉは前任校で画伯とはいっしょに勤務した。
画伯は長崎県出身である。九州男児である。
飄々とした人である。そのうち「どっどど　どどうど　どどうど　どどう」などと言いながら青いくるみを吹き飛ばしながら風と一緒にどこかへいってしまいそうだ。
さて、そんな吉岡二郎画伯主幹教諭の人となりや教育観を白日の下にさらしてしまおう。二郎アフォリズムの洗礼を受けよ!
まずは人となりを知ってもらう質問。

Q　スキな花は?
A　サクラだね。日本人だからね。
Q　スキな詩人は?
A　中原中也かな。
Q　スキな哲学者は?
A　中沢新一。ボクの世代はね、大なり小なり影響を受けているよ。彼には。
Q　画伯にとって至福の時とは?
A　日本酒を嗜みながら音楽を聴く。今は「酔鯨」という土佐の酒が気に入っている。呑むときのBGMはクラシック。ドビュッシーの「月光」を聴きながら呑んでいるのが至福の時。

Q　幼少のころには小学生向けの大きなコンクールで「内閣総理大臣賞」を受賞、神童と謳われた画伯ですが、美術という教科を通して教えたいことは何ですか?

A　**肩の力を抜いて楽に生きろっ!**
寿命を全うできたら 100 点だ!

Q　楽に生きろっ!ってところが画伯らしいですね。
それでは、どんな生徒を育てたいですか?

A　**世の中に文句が言える生徒**

Q　それは大切ですよね。
うつむいて言いたいことも言わずっていうのは芸術を志した者としての矜持に関わることですしね。
それでは主幹教諭として心がけていることを教えてください。

A　まずは朝早く来る。それからみんなにコーヒーを煎れる♥
それさえやっておけば、後はチーム東中の優秀なスタッフが全てやってくれます。

画伯らしい答えだ。
自分の苦労は見せず、手柄は仲間のものにするのだ。実際は見えないところで様々なことをやっている。面倒なことや汚れ役だって引き受けている。
非常にシャイな人柄なのだ。本当はもっと様々な実践を積んでいるのだ。
そういうことは言葉にせずに、「仲間のおかげ」と言うところが彼のリーダーシップの取り方なのだ。

インタビュー・写真　稚内教育研究所　泉　雄大【稚内中学校】